

くつろぎタイム

自然を味わえる
山登りが趣味。
リフレッシュは、
実家でのひとときです。



宮城交通株式会社(泉区泉ヶ丘)
代表取締役社長
仙台商工会議所 2号議員

あおぬま まさき
青沼 正喜 氏
昭和33年4月13日生まれ
宮城県大崎市出身
血液型O型

東北学院大学経済学部を卒業後、宮城交通の親会社である名古屋鉄道に入社。名古屋や東京で勤務後、宮城蔵王観光を経て、宮城交通に営業部長として赴任。平成25年より現職。

「座右の銘は特にありません。いつも従業員に話をするときは、誰かから聞いた話や、何かで読んだ話ではなく、自分が体験したこと、感じたことを、時には失敗談も交えながら自分の言葉で話すようにしています。その方が伝わりやすから。社長になってからは少しまじめな話が多くなったような気がします」と笑顔で話す。

山登りが好きと伺いましたが。

東京勤務時代に、自称クライマーの先輩がいて、最初に誘ってもらった登山があまりにも素晴らしく、心を奪われました。私は、周囲が一面田畑という田舎で育ちましたので、緑がたくさんあるところに行くと、心が和みますね。その上、そのときの先輩が最高の登山プランを立ててくれたものですから、初登山は大変感動的でした。危ない体験もしつつ、その先輩とは関東から関西までの主だった山に登りました。よい趣味をつくってくれた先輩に感謝しています。先日福島の安達太良山に登り、紅葉を満喫してきました。帰りに秘湯中の秘湯と言われる、不動の湯という温泉につかってみました。とても気持ちよかったですね。

山登りをしない休日は、どのようにお過ごしですか。

山登りは一人では行きませないので、いつも家内に付き合ってもらいます。誘ったときは色よい返事をしない家内も、登った後は感動してくれているようですので安心します。

登山の魅力は、非日常を味わえることです。車で通れる道でもそれなりに風景は楽しめますが、実際に自分の足で登らなければ見ることができない景色というものがありません。今年、南蔵王が美しい時期を見計らって登りました。ちょうど梅雨時で、チングルマ、コゼンタチバナなどを見ることができました。東北は植生が豊かですね。

いつも家内と話しながら、日帰りで遊んで来られるコースをつくって出かけます。私は出かけるとき、目的を1つではなく、5つくらいつくるんです。「見る」「歩く」「お風呂に入る」「水を飲む」と、「水を飲む」という具合です。目的が1つだと、例えばお昼ご飯を食べたかたお店が臨時休業だったとか、天候が悪くて見えたかった景色が見られなかったとかという理由で、せっかくの外出が満足いくものにならないかもしれません。目的が5つくらいあれば、すべてではないにせよ、達成感を得ることができずから私は必ず複数の目的を決めて出かけるんです。

つくってあげるよ」と腕まくりしたものです。今は2人とも県外で暮らしていますが、張り合いがなくなりました。それでも、食べるのが好きだということ、田舎からもらった米(ご飯)に合うおかずをつくりたいという気持ちがありますので、たまに腕ふるったりしています。

今後、挑戦してみたいことがありますか。

退職をした後、必ずやってみたく思っていることがあるんです。それは1カ月とか2カ月単位でどこかの地域に暮らしてみることです。短期で賃貸マンションを借りて、今日は晴れたからあの山に登ってみようとか、隣の町で収穫祭があるから行ってみようというように、その街で暮らすような「遊び」をやってみるのが夢なんです。長期滞在をして、ふりでも実際に住民になつてみることで、触れることができるその土地ならではの風土や文化というのがあると思いますし、普段の旅行では味わえない体験もできそうな気がします。考えるだけでとても楽しみです。それまで健康でいなければならぬなと思っています。

最後に、お仕事の近況をお聞かせください。

私どもの使命は、第一に、路線バス

それから、だいたい月に1度は実家に帰ります。私は田舎料理の煮つけや漬物なんかが好物なのですが、帰る前に「何日に行くよ」と連絡をすると、それらをつくって待っていてくれるんです。実家に帰って仏壇に手を合わせ、おふくろの顔を見て、料理をごちそうになったら昼寝をする。これが気持ちいいんです。目が覚めたら、今度はおふくろと一緒に畑に行って野菜を収穫して、その野菜と実家でつくった米をもらって帰ってくる。田舎があるというのは、本当に良いものですね。

家内は岐阜県の出身なのですが、すっかりこちらが気に入って、「あなたも転動になつても私は残りますから、一人で行ってくださいね」なんて言われているんですよ(笑)。でも、自分の故郷を伴侶が好きになってくれるというの、とてもうれしいことです。

健康面で気を付けていることを教えてください。

毎朝NHKで放送しているテレビ体操を続けています。出張に行つてもこれは必ずやります。それから、晴れた日は、会社まで40分ほど歩いて通勤しています。

食事は、「食べ過ぎですよ」と言われるほど、何でもたくさん食べます。献立は基本的に家内任せですが、休みの日は自分でつくることもあります。2人の娘が小さいときには、「お父さんが



いつも一緒に青沼さんの「遊び」に付き合ってください。奥さまとともに、福島県安達太良山に登ったときの1枚(平成30年10月13日撮影)。

を維持し、地域住民の皆さんの利便性を確保することだと思っています。インバウンドも増えている中、二次交通の充実など、皆さんからご期待いただいていることがたくさんあることは認識していますが、人手不足(運転士不足)という環境の下で、優先順位を見誤らずに、自社としての取り組みを進めて参りたいと考えています。

東日本大震災のとき、弊社はその日の夜からバスを走らせました。急病人やけが人を病院等に搬送しました。中には自宅が津波で流された運転士もありましたが、地域のお役に立ちたいという思いで、仕事を優先してくれました。これは宮城交通という会社の風土であり、地元のためによくがんばる従業員は弊社の自慢です。これからも末永く、皆さまの足として、その役割をしっかりと果たしてまいりたいと思っています。

やがて生まれ来る子供たちのために。

宇宙のオアシス『地球』。ただひとつの、この青い星を守って行かなくてはなりません。大切な人のために、そしてやがて生まれ来る子供たちのために。私たちは、よりよい環境をめざし、考えつづけます。



より良い環境をめざす
AOBA 青葉環境保全

本社/仙台市若林区蒲町19-1 電話(022)286-3161(代)